

習得度確認試験（学科） 解答&解説

47 期 日曜クラス

【問 1】正解は、「4」

厚生労働省が毎年発表している「能力開発基本調査」における傾向において、最も不適切なものはどれか。

1. OFF-JT と自己啓発支援のどちらにも支出をしていない企業は、全体の約半数にのぼる。
 2. 事業内職業能力開発計画の作成状況は、「いずれの事業所においても作成していない」とする企業が 4 分の 3 程度を占め、また職業能力開発推進者を選任していない企業は、それ以上の割合にのぼる。
 3. 正社員に対してキャリアコンサルティングを行うしくみを導入している事業所は 5 割に満たないが、産業別に見ると、金融業・保険業、複合サービス事業、電気・ガス・熱供給・水道業などで高い傾向にある。
 4. 正社員以外に対してキャリアコンサルティングを行うしくみを導入している事業所は 3 割程であり、正社員に比べると低い水準にとどまっている。正社員、正社員以外ともに、規模が大きくなるほどキャリアコンサルティングを行うしくみを導入している割合が低くなっている。→×
- 規模が大きくなるほど割合は大きくなる。

【問 2】正解は、「1」

キャリアコンサルティングの役割と意義に関する記述について、適切なものはどれか。

1. キャリアコンサルティングは、「個の尊重」を背景として、一人一人が独自でユニークな存在であるという人間観に立っている。
2. 組織内でのキャリアコンサルティングは、個人の立場に立つことが最も重要である。
3. メンタルヘルス支援は大事な役割だが、復職支援は別の専門家が行う必要がある。
4. キャリアコンサルティングは文化の多様性を除く個性の面での多様性のみを取り上げる。

【問 3】 正解は、「3」

キャリアコンサルタントに求められる倫理に関する記述について、最も不適切なものはどれか。

1. 多重関係になることによって、守秘義務や任務範囲の認識が曖昧になるなど、他の倫理規定に抵触するおそれが増大する。
2. クライアントは家族に連絡しないでくれと言ったが、本人が強い自殺願望を持っていたので家族にそのことを伝えた。
3. 相談者が未成年の場合、保護者に面接内容を教えることは問題ない。
4. 多重関係にはキャリアコンサルティングを通じて生じる関係とキャリアコンサルティング以前に生じていた関係が含まれる。

【問 4】 正解は、「3」

キャリアコンサルティングの記述について、最も不適切なものはどれか。

1. キャリアコンサルティングは、個人に対しては、職業を中心にしながら個人の働き甲斐、生き甲斐までを含めたキャリア形成を支援する。
2. キャリアにおける「仕事」は、ボランティア活動や地域活動等も含めて考えることができる。
3. キャリアコンサルティングは、相談者の職業選択と職業生活に関する問題の解決を専門的に支援する活動である。→×「問題の解決」が誤り
4. キャリアコンサルティングは、労働者の職業の選択、職業生活設計又は職業能力の開発及び向上に関する相談に応じ、助言及び指導を行うことをいう。

【問 5】 正解は、「2」

キャリア理論の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- ア. シュロスバーグは組織心理学の理論家である。→×組織心理学ではない。
イ. スーパーのライフキャリアレインボーは、人生における様々な役割と、それが年齢とともに変遷していく様子を表したものである。
ウ. ホランドのタイプ理論は個人の特徴を生かせる職業の選択を支援できる。
エ. キャリア・アンカーは、キャリア形成の過程において変化していくことはない。→×変化する

1. アとイ 2. イとウ 3. ウとエ 4. アとエ

【問 6】 正解は、「3」

シャインに関する記述のうち、適切なものはいくつあるか。

ア. シャインは 12 個にパターン化された個人のキャリアにおける自己概念を「キャリア・アンカー」と名付けた。→×12 個ではなく 8 個

イ. シャインは、キャリアは「内的キャリア」と「外的キャリア」の 2 つの軸から捉えられるとした。

ウ. 職務と役割の戦略的プランニングのツールをキャリアサバイバルと言い、6 つのステップがある。

エ. キャリア開発の視点の本質は、時の経過に伴う個人と組織の相互作用に焦点があることにある。

1. 1 つ 2. 2 つ 3. 3 つ 4. 4 つ

【問 7】 正解は、「4」

クランボルツの理論に関する記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 新しい考えや経験に対して、常にオープンであり続けるのが良い。

2. 変化し続ける仕事環境において、満足のいく人生を作りだしていけるように、スキル・興味・信念・価値・職業習慣・個人特性に関する学習を促進させる。

3. 職業選択とキャリア・デベロップメントに影響を与えるものは「先天的な資質」「環境条件や出来事」「学習経験」「課題へのアプローチスキル」とした。

4. 「無然の出来事」を、チャンスや好機に変えるためには 4 つのスキルが必要とした。→×4 つではなく 5 つ

【問 8】 正解は、「1」

ギンズバーグの理論に関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 理念の修正が行われてきたが、「個人は、変化するキャリア目標と職業の世界の現実との適合をどのようにするか、繰り返し再評価することになる」という発達の観点は変わっていない。

2. 1950 年代に構築された最初の理論では、職業選択のプロセスは可逆的であると指摘した。

3. 著書に「職業の選択」（1909 年）がある。

4. 職業発達のプロセスを一般に「成長期」「探索期」「確立期」「維持期」「下降期（衰退期）」の 5 段階に分類した

【問 9】 正解は、「3」

認知行動療法に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 認知行動療法では、悩みの原因を「しなければならない」「してはならない」「すべきである」といった誤った認知、歪んだ認知からくるものであると考えている。
2. 行動療法では「行動の仕方」を問題にするが、認知療法では「思考が行動に影響を及ぼす過程」を問題にする。
3. 論理療法はベックが提唱し、認知療法はエリスが提唱した。→×論理療法→エリス、認知療法→ベック
4. 認知行動療法の技法にはセルフ・モニタリングなどがある。

【問 10】 正解は、「4」

ロジャーズに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1. ロジャーズの理論は「自己成長論」と呼ばれ、クライエント中心療法を提唱した。
2. ロジャーズはニューヨーク市の「児童相談研究施設」で精神分析療法に基づく治療を行ったが、精神分析的な解釈ではうまくいかないことがわかった。
3. ロジャーズの理論は「非指示療法」「クライエント中心療法」「パーソンセンタード・アプローチ」「スピリチュアル志向のカウンセリング」と変遷した。
4. 晩年、西部行動科学研究所に移籍後、人間研究センターを設立し、来談者中心カウンセリングを用いて、各国の紛争地域で問題に取り組んだ。→×来談者中心カウンセリングではなくエンカウンター・グループ

※問 10 が 1 番悩みました。どれも正解に見えましたが消去法で 4 を解答にしました。

【問 11】 正解は、「3」

1. 「言語的コミュニケーションのみ」が誤り。非言語コミュニケーションも行われる。
2. 「主張及び説得すること」が誤り。説得まではする必要がない。
3. 「事実や事柄について」が誤り。相手の言葉や表情、態度から読み取れる感情を、そのまま伝え返すコミュニケーション技法である。

【問 12】 正解は、「2」

「職務経歴書の作成が最も重要な課題となるため、職業興味検査や職業適性検査を実施する必要はない」が誤り。職業興味検査や職業適性検査も実施する必要がある。

【問 13】 正解は、「1」

2. 「高校生以上を対象としている」が誤り。対象者は中学生・高校生。場合によっては大学生でも可。

3. 「高校生の」が誤り。高校生以上ではなく短大生、大学生以上。

4. 「4 種類の興味・関心」が誤り。キャリアインサイトは、自己理解、仕事理解、キャリアプランニングなどの様々な側面から支援するツールで、単に 4 種類の興味・関心を調べるだけのものではない

【問 14】 正解は、「4」

心理テストの標準化は、検査の指示、時間制限、環境設定などを統一することで、検査を受ける際の条件を均一化することを指す。

【問 15】 正解は、「1」

職業情報提供サイト（愛称 job tag）は、直接的な「事業所検索」機能や「就職診断」機能は持っていない

【問 16】 正解は、「2」

ア. 「週に一度」が誤り。基本的に毎日更新される。

エ. 「必ずハローワークに求職申込を行う」が誤り。

オンライン上で手続きすることも可能。

【問 17】 正解は、「2」

事業内職業能力開発計画の作成は事業主が必ず行う必要はない。

【問 18】 正解は、「2」

「SNS などの活用が求められていることから」が誤り。

I T 人材など時代のニーズに即した人材育成を強化するとともに、職業能力開発分野での新たな技術の活用や、企業の人材育成の強化を図る

【問 19】 正解は、「2」

2 の説明は「ハロー効果」。対比誤差は評価者が自分自身や他の人を基準にして被評価者を評価してしまうことで生じる評価の偏りのことである。

【問 20】 正解は、「1」

2. 賃金は「満足要因」。
3. 「成長欲求」が誤り。自己実現欲求である。
4. 「優先して行われる」が誤り。同時に行われるものである。

【問 21】 正解は、「3」

1. 労働基準法第 20 条 1 項 使用者は、労働者を解雇しようとする場合においては、少なくとも 30 日前にその予告をしなければならない
2. 解雇予告の取り消しは、労働者が同意すれば可能である
4. 労働基準法には解雇の意思をどのように労働者に伝えるかについて具体的規定はない。口頭・メールなどでも可能。

【問 22】 正解は、「3」

1. 雇用調整助成金の支給対象延べ人数は 2020 年 8 月をピークに、その後減少→横這いの状況
2. 運輸業・郵便業が一番多く、卸売業・小売業は 5 番目である
4. 副業・兼業は男女ともに若年層中心(29 歳以下)に行われ、現時点では広がりは見られない

【問 23】 正解は、「2」

1. 近年は M 字の谷の部分の浅くなっている
3. 労働力人口とは、15 歳以上の人口のうち就業者と完全失業者を合わせた人数
4. 調査期間に少しも仕事をしていない、仕事があればすぐに就業可能、調査期間中に求職活動や事業を始める準備をしていた三つの条件を満たす者

【問 24】 正解は、「1」

1. 第 8 条 女性のみを対象とするまたは女性を有利に取り扱う措置(ポジティブアクション)は法違法とならない

【問 25】 正解は、「1」

2. 違約金及び損害賠償額を予定する契約は禁止
3. 労働時間や休憩、休日に関する規定が適用除外となるものがある(管理監督者、一部の公務員、個人事業主として仕事を請け負っている人など)
4. その契約自体無効とはならず、基準に達しない部分について無効となる

【問 26】 正解は、「3」

1. 出頭だけでなく、求職の申し込みと受給要件(通算の雇用保険加入期間 12 か月以上など)を満たす必要がある
2. 正社員、アルバイト、パート、契約社員など、雇用形態に関わらず、労働基準法上の労働者であれば全員対象となる
4. 募集・採用における年齢制限の禁止は雇用対策法であり、原則として年齢制限は禁止だが例外事由が認められる場合がある

【問 27】 正解は、「1」

1. 第 3 号被保険者(第 2 号被保険者に扶養されていて、年収 130 万円未満の 20 歳以上 60 歳未満の配偶者)がある

【問 28】 正解は、「4」

ア. キャリア教育は、それぞれの学校段階で行っている教科・科目などの教育活動全体を通じて取り組むべきものである

イ. キャリア教育は、幼児期の教育から高等教育までを通じて ※ここでいう高等教育＝大学

【問 29】 正解は、「2」

2. 結果の開示は本人の同意が必要となり、全ての労働者の結果を確認できるわけではない

【問 30】 正解は、「1」

2. ハイテンションで活動的な躁状態と、憂うつで無気力なうつ状態を繰り返し、躁状態になると大きな買い物やギャンブルなどで散財するといったことがみられる

3. ストレス因により情緒面や行動面の症状で、社会的機能が著しく障害されている状態

4. 健康な時にはなかった状態が表れる陽性症状(幻覚や妄想)と、健康なときにあったものが失われる陰性症状(意欲の低下、感情表現の減少など)がある

【問 31】 正解は、「3」

1. 最終的な職場復帰の可否の決定は、事業者が行うものである。

2. 職場復帰の際は原則として、配置転換を行わないことが望ましい。ただし、異動等を誘因として発症したケース等においては、配置転換や異動をした方が良い場合もあるので、留意すべき。

3. <就業上の配慮の例> ・短時間勤務・軽作業や定型業務への従事 ・残業・深夜業務の禁止・出張制限・交替勤務制限

・危険作業、運転業務、高所作業、窓口業務、苦情処理業務などの制限・フレックスタイム制度の制限または適用・転勤についての配慮など

4. 休業する労働者に対しては、病気休業期間中に安心して療養に専念できるよう、傷病手当金等の経済的補償や、悩みの相談先、休業の最長期間の情報提供等の支援を行うべきである。

【問 32】 正解は、「4」

4. 「成長段階」の発達課題は、仕事世界への志向性や、働く意味の理解を発展させることであるとしている。

【問 33】 正解は、「2」

1. 発達上の問題である社会的ひきこもりとは、明確な精神障害がその第一の原因であるとは考えられないものを指す。
3. レヴィンは、青年を大人でもこどもでもない、社会で安定的立場をもたない存在として捉え、周辺人、境界人と呼んだ。
4. ハヴィガーストは、発達課題とは、各段階において達成しておくことが社会によって期待されている能力・役割・技能であるとした。

【問 34】 正解は、「3」

3. ブリッジズは、転機の第一段階を「終焉」であるとした。
ブリッジズの転機は3段階で進み
終焉 → ニュートラルゾーン → 開始

【問 35】 正解は、「3」

ウ. 従業員を 50 人以上雇用している企業は、障害者を 1 人以上雇用しなければならない。

【問 36】 正解は、「4」

4. 職場適応援助者（ジョブコーチ）支援事業は、障害者の職場適応に課題がある場合に、職場にジョブコーチが出向いて、障害特性を踏まえた専門的な支援を行い、障害者の職場適応を図ることを目的としています。

【問 37】 正解は、「2」

1. カウンセリングでは、現在の問題より、未来の問題を解決することに焦点をあてるほうが効果を期待できるので、そのことに注意とエネルギーを傾注することが望ましい。問題の根本に横たわる過去の経験、つまり元を辿って「なぜ」問題が生じたのかという点よりも、現在抱えている問題が改善しなかったり悪化したりする過程に目を向けていく。
3. 相談者の幅広く柔軟な反応を引き出し、会話を進めるために受容、伝え返しなどをする。
4. 相談者の家族状況は、キャリア選択に重要な要素となる。

【問 38】 正解は、「1」

2. グループワークでは、メンバーの態度変容を促進するため、リーダーはチームの目標設定、チームメンバーの指導、意思決定を行う。リーダーの助言のもとに相互の情報、意見を交換し合う。
3. グループアプローチが効果をあげるために、グループメンバーは集団に適応的、協調的行動をとることよりも、個人的特徴を行使することが期待される。
4. グループアプローチとは、共通の目標と類似の問題を有するクライアント数人が会合し、リーダーの助言のもとに相互の情報、意見を交換し合うことによって、各自の問題解決に資することを目的にするグループ活動のことである。

【問 39】 正解は、「2」

2. あらかじめエクササイズなどの課題が用意されているのは、構成的グループエンカウンターであり、ベーシック・エンカウンター・グループは、あらかじめエクササイズなどの課題は用意せずにフリートークを主体に行う。

【問 40】 正解は、「2」

1. 可能性のある方策を並べて、メリットデメリットを比較検討する。
3. 方策が相談者の欲求、価値観、置かれた状況に反する時には、クライアントのニーズに合うように方策を変更する。
4. コンサルタントも自分の役割を実行する。

【問 41】 正解は、「4」

1. ×「主体的、主観的」→○「客観的」
2. 検査やテストを行った後はクライアントに対しフィードバックを行う
3. 相談者の希望に合わせて柔軟に対応する

【問 42】 正解は、「1」

初期の段階では、クライアントが話しやすいような物理的環境・心理的環境を整えることに主眼を置く

1. ×「できるだけ多く開示してもらう」

【問 43】 正解は、「1」

2. ×「新入社員から中堅層の育成を目的とし」→全世代を対象とする
4. ×「スペシャリスト育成」→自律的・主体的なキャリア育成を目指す

【問 44】 正解は、「4」

1. 本人の同意なく第三者に話してはいけない（※自殺の恐れなどがあるときは例外）
2. 社員が企業内コンサルタントとして活躍する例もある
3. 人事考課に対する不満や異動希望もキャリアコンサルティングの範囲内

【問 45】 正解は、「4」

4. ×「経営者の方針を優先」→経営者・従業員両者の意向を尊重する

【問 46】 正解は、「1」

キャリアコンサルタントは資格取得後も必要な知識の維持やスキルの向上に努めなければならない。

2. ×「できるだけ自分の力のみで対応」→上位者からの指導を受ける等が必要
3. ×「あらゆる問題を解決」→自身の限界を理解する
4. ×スーパービジョンも実践も両方必要

【問 47】 正解は、「1」

- 2. ×「複数の資格を持つことは避ける」
- 3. ×「何も触れずに医者や臨床心理士などの専門家にリファー」→キャリアコンサルタントは治療はできないが、キャリアに関する問題への対応は可能。"何も触れずに"が誤り

【問 48】 正解は、「2」

- ア. ○
- イ. ×→事前のプログラム作成が必要
- ウ. ×→席のレイアウトに最も望ましい形はない。臨機応変に対応。
- エ. ○

【問 49】 正解は、「1」

- 2. ×「スーパーバイザーは、(中略) 経験豊富なキャリアコンサルタントでなくても構わない」→経験豊富なキャリアコンサルタントである必要がある。
- 3. スーパービジョンの効果は「キャリアコンサルティングスキルの向上」、「相談者とキャリアコンの関係性についての理解の深まり」、「キャリアコン自身についての理解の深まり」など。最大の意義は担当する相談者の利益につながること。
- 4. スーパービジョンをする者をスーパーバイザー、受ける者をスーパーバイジーと呼ぶ。

【問 50】 正解は、「2」

- 1. クランボルツのハップンスタンス・ラーニング・セオリーで重要とされる要素
- 2. ○
- 3. ロジャーズの来談者中心療法でカウンセラーが持つべきとされる基本姿勢
- 4. キャリアガイダンスの 6 分野